

都市型災害に備えて — 第9回防災セミナー開催報告 —

平成18年3月8日(水)にポールスター札幌にて、第9回防災セミナーを開催しましたので報告します。

防災研究会第VI期の活動テーマであります「都市型災害に備えて」と題して、北海道防災会議地震専門委員会座長、札幌市地震防災検討委員会委員長など、道内の地震防災対策の第一人者であります北海道大学の鏡味洋史教授に基調講演をいただくと共に、当研究会5部会の代表者によるパネルディスカッションを下表のとおり行いました。

参加者数は75名、セミナー終了後の情報交換会にも35名の参加がありました。

- | | | |
|-------|---------------|---|
| 15:00 | 開会 | 防災研究会会長 高宮 則夫 |
| 15:05 | [基調講演] | 『札幌の地下構造と地震防災について』
北海道大学都市防災学研究室教授 鏡味 洋史 |
| 16:15 | [パネルディスカッション] | 『都市型災害に備えて』 |
| | ●コーディネーター | 防災研究会地盤系部会長 北 健治 |
| | ●アドバイザー | 北海道大学都市防災学研究室教授 鏡味 洋史 |
| | ●パネリスト | 防災研究会情報系部会長 加治屋安彦
防災研究会交通系部会幹事 木村 和之
防災研究会都市系部会長 川上 忠義
防災研究会水工系部会長 瀬川 明久 |
| 17:45 | 閉会 | |
| 18:00 | 情報交換会 | |

(敬称略)

■基調講演の概要

鏡味教授の基調講演では、札幌市が2001年度から

4年間にわたり実施してきた「石狩平野北部地下構造調査」によって明らかになった「札幌の地下構造(平成17年:札幌市)」(図-1)について、その背景や調査方法を含めて紹介をいただき、その上で、札幌周辺における地震災害の歴史や被害状況を踏まえて、今後の札幌における地震防災の方向性について講演(写真-1)をいただきました。

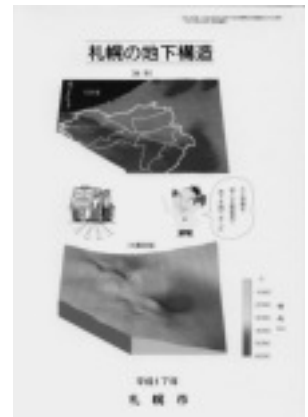


写真-1 講演資料

阪神淡路大震災時に深層地盤の影響によるフォーカシングやエッジ効果により震度7の発生帯が生じたことを受けて、都市域における深い地下構造の探索の重要性が再認識されています。このため、各自治体は文部科学省の交付金により都市域の地下構造調査を進めてきています。この調査結果を踏まえて、鏡味教授が委員長の札幌市地震防災検討委員会では、昨年11月に「地震防災対策に関する提言」を公表しています。



写真-2 基調講演

■パネルディスカッションの概要

パネルディスカッションは、基調講演を受けて、札幌大地震を想定とした都市型災害に向けた防災・減災対策について、鏡味教授にも引き続き参加をいただき、当研究会地盤系部会の北部会長のコーディネートにより行われました。パネリストには、各部会を代表して、加治屋情報系部会長、木村交通系部会幹事、川上都市系部会長、瀬川水工系部会長が加わり、これまでの各部会での研究成果の報告をもとに、今後の取組の方向性や検討課題などについて討論が進められました。

各部会からの報告内容は、以下のとおりです。

地盤系からは、今後さらに必要な調査研究として、行政連携による広域地下探査及び石狩地震推定震度分布などの作成や直下伏在断層の調査推進及び地震基盤観測井による地殻応力度測定が挙げられ、長周期地震動に対する高層ビルの耐震性再検討や谷埋盛土宅地の液状対策などの必要性が提案されました。

情報系からは、2002年、2003年に実施された防災アンケートの結果を踏まえ、日常的な防災意識の維持向上、特に高齢者など災害弱者の現状把握や医療機関などとの連携の必要性が挙げられ、従来の階層的な防災体制から携帯電話などを活用した地域社会とのネットワークを強化する体制への展開が提案されました。

交通系からは、これまでの交通インフラなどハード対策を中心とした防災対策から自助・共助・公助の適正なバランスによる協働型ソフト施策を組み入れた減災型交通対策の必要性が提案され、今後の都市防災に向けた交通ネットワークのあり方や施設整備の検討の方向性が示されました。



写真-3 パネルディスカッション
(左から北部会長、鏡味教授、加治屋部会長)



写真-4 パネルディスカッション
(左から木村幹事、川上部会長、瀬川部会長)

都市系からは、「技術士からの27の提言」を踏まえて、この間の都市構造および都市計画の観点からの研究成果をもとに、安心安全なまち（都市）づくりにおける主体は誰なのか、今後の防災・減災対策に向けた重要な論点が投げかけられました。

水工系からは、これまでの札幌近郊の地震による堤防災害の状況や2003年の宮城県北部地震における地震と洪水の複合災害の事例などが紹介され、防災拠点としての河川空間の利活用に向けた「環境防災都市河川整備」の方向性が提案されました。

■まとめ

鏡味教授は、今後、札幌に被害がおよぶ可能性のある地震例として、石狩低地東縁断層や直下の伏在断層による内陸地殻内地震、1993年の北海道南西沖地震や2003年の十勝沖地震などのようなプレート境界大地震、さらに1993年釧路沖地震のようなスラブ内（海洋プレート内）地震などを挙げ、札幌における地震防災対策の着実な展開の必要性を提言しています。

去る4月25日の北海道支部40周年記念大会において、当研究会の活動経緯と今後の研究活動の方向性を報告しましたが、引き続き「都市型災害に備えた防災・減災対策」を活動テーマとし、札幌大地震に備えた防災・減災対策、地震・風水害等の複合型災害の調査研究を進めるとともに、防災減災文化の醸成に向けた活動として研究会ホームページ（更新予定）を活用した市民への情報発信をはじめます。

(文責：防災研究会幹事長 城戸 寛)